

されていた。キキョウ、カワラナデシコが刈り残されている。池には、ヒシ、イヌタヌキモ、シャジクモ、ヒルムシロ、サンカクイ、コガマ、ジュンサイ、ウキクサなどが見られた。

今回、目についたものについては採集し標本として、頌栄短期大学にて收藏する予定であるが、今後、打ち合わせを行って調査するポイントを絞っていかないといけないと感じた。

3 「宝塚の高司児童館の植生調査」

後藤統一

園庭除草の省力化に向けての基礎調査（中間報告）宝塚市高司児童館の環境整備も手がけている非営利組織メリーポピンズから、阪神支部に雑草制御の省力化はできないかという相談があった。

雑草を根絶すると昆虫もいなくなる。子供たちが草や虫と遊ぶことができ、園庭としての外観を、可能な限り省力化を計りながらも、維持するにはどのようにすればいいのか。このような観点から雑草制御のため基礎資料を収集中である。

4 「兵庫県菅生川産カワリヌマエビ属エビに付着する中国産ヒルミミズの実態と問題点」

丹羽信彰

①日本固有種『ミナミヌマエビ』が絶滅しようとしている。

2003年夏、菅生川産の本種の繁殖に関して卵を観察中、『変な虫』が体表に多数付着していることに気付いた。この『変な虫』は何か？中国産ヒルミミズ (*Holtodrilus truncatus*) と同定され、世界的権威メイン大学Gelder博士も巻き込んで大騒ぎになった。現在、年間20ト近く中国から輸入されている釣り餌用生きエビ（ブツエビ）に中国産ヒルミミズが付着して、非意図的に移入され、全く知らないうちに日本の河川に広がって、中国と日本のエビの交雑種が出来、日本固有種『ミナミヌマエビ』が絶滅しようとしている。まさにニッポンバラタナゴがタイリクバラタナゴに駆逐されたこの『エビ版』が進行している。

②インターネット販売も行なわれ、本来の分布域以外でも採集され、生物攪乱が進んでいることが窺える。

釣り餌用として販売される他「ミナミヌマエビ」の名でアクアリウムの観賞用動物や水槽の苔取り用としてインターネット販売も行われている。焼津および琵琶湖以西から鹿児島県にかけて分布記録があるが、分布記録のない千葉、神奈川県で採集され、京都市深泥が池や琵琶湖でも採集されるようになった。またハワイ、オアフ島真珠湾付近の淡水域でも採集され、密放流された可能性もある。

③中国からの釣り餌用生きエビ輸入に伴ってヒルミミズやエビヤドリツノムシなど付着生物があたかも『中国の一部を切り取るように』全くノーチェックで輸入され日本に広がっている。

④エビに付着するヒルミミズの生態については全く不明で産卵場所と産卵からふ化までについても触れた。

平成17年度生物学会西播支部活動報告

10月22日（土）的形町福泊海岸植生調査

生物部会西播磨支部・自然保護協会姫路支部共催
高校生7名を含め、計16名が参加し実施されました。

9時半 杉田隆三先生の趣旨説明の後、山本一潔先生の実施方法の説明を聞き、4つのグループに分かれて砂浜の植生調査を行いました。

調査は午前中に終了し、海岸で弁当を食べた後解散しました。

10月30日（日）第5回里山観察会 上郡町赤松 「赤松の郷 昆虫文化館」

講師 昆虫文化館館長 相坂耕作 先生

横山正先生が指導する赤松原体験教室の児童18人を含め総勢38名が昆虫館に集い、相坂先生のバッタ類のお話を聞き、昆虫館の見学をしました。原体験教室の関係者以外は昼食の後、車に分乗し近くの神社・寺院を案内していただきました。

赤松 松雲寺のカヤ（樹齢800年）

苔縄 法雲寺のビヤクシン（樹齢800年 日本一）

岩木 大避神社のコヤスノキ群落

夏期研修会参加報告

奈島弘明

生物学会以外に兵庫植物同好会と合同で研修会があった。参加者は30名。



8月18日(木)ハチ高原駐車場に集合後、登山道を小代越に向って登る。ハチ高原は以前は火入れをしていてススキ草原が維持され茅場として利用していた。スキーや夏の観光のため、カラマツを植えるも現在は枯れているとのこと。ここはオミナエシを食草とするウスイロヒヨウモンモドキがいる。下から観察された植物はスズサイコ、ハギ、ススキ、ヒメジョオン、ツユクサ、アブラススキ、コウライシバ、ツリガネニンジン、ゲンノショウコ、イタドリ、シシウド、アカソ、ネバリタデ、ヒキオコシ、クルマバナ、オオアブラススキ、サワオトギリ、ヌスビトハギ、ギボウシ、イヌガンソク、アカショウマ、キンミズヒキ、アキカラマツ、タニウツギ、ウツボグサ、ノブドウ、オタカラコウ、オオナンバンギセル・・・であった。

途中で湿地を観察。ウメバチソウ、オミナエシ、アブラガヤ、サワヒヨドリ、コリヤナギ、シオガマ、ヒメヒゴタイ、タンナサワフタギを観察する。



小代越付近ではヤマジノホトトギス、コオニユリ、ホクチアザミ、ショウジョウバカマ。オミナエシとアブラガヤは盆の花で手をくわえた草原はオミナエシが多いとのこと。

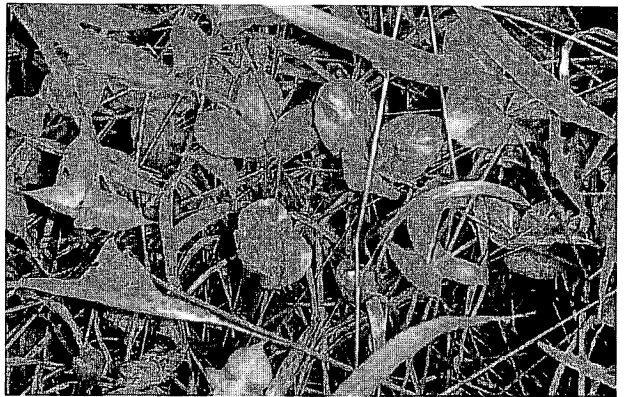
ミツガシワ群生地を見学。タラノキ、ノブドウ、ミツガシワ、サワヒヨドリ、シオデ、ミゾソバ、ノブキ、オオカメノキ、コシアブラを観察。杉林の中の湿地にミツガシワが生えていたが他の植物が入り込んできていてミツガシワは貧弱なものであった。

ハチ北 先大沼(小沼湿地) トチノキ、ノブキ、オタカラコウ、ミヤマカタバミ、トチバニンジン、ミズ(ウバミソウ)、ミズヒキ、ユキザサ、ミズバショウ(新潟県産 移植)、ヤマジノホトトギス、チヂミザサ、ミゾハギ、ミズナラ

移植されたミズバショウは多かった。観光にも利用されず放置されていた。

大沼 フシグロセンノウ、ヌマトラノオ、ミズオトギリ、ミズゴケ、ヤマドリゼンマイ、ノイバラ、イヌツゲ、イヌノハナワラビ、ホシクサ、ゴマキ、ヤマイ、クルマバナ、イタドリ、アカツメグサ・・・。

ハチ北高原の観察では車で移動したが道路が悪く、



私の運転技術が悪く、車が坂を登らなくなった。同乗の上中先生、樋口先生が降りて車を押しいただき無事上がれました、ありがとうございました。

夜は鉢伏、氷ノ山の自然をどのように保全するかの提案会となり、南但馬の自然を守る会のご苦勞されて

いることを実感した。

8月19日(金)車で大段ガ平へ移動し、神大ヒュッテを経て古生沼を目指す。

ツルアジサイ、ツリフネソウ、シナノキ、ブナ、ミズナラ、タニギキョウ、ツルリンドウ、ノリウツギ、ナナカマド、孵化したてのミヤマカラスアゲハ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、マルバフユイチゴ、ミズメ、コミネカエデ、イワガラミ、オオカメノキ、リョウブ、ユズリハ、エゾゼミが鳴く、オオイタヤメイゲツ、ミヤマタニソバ、ユキザサ、シラネワラビ、トチバニンジン、ヤマアジサイ、ヒュッテそばの水場ではタマガワホトトギスを見る。

ヒュッテをすぎると歩きやすい木製の歩道が続く。オオミズゴケ、トウゲシバ、ホツツジ、ツノハシバミ、ミズメ(幹は桜のようで枝を折るとサロメチールのようなにおいがした)、エゾノヨツバムグラ、ヤマソテツ、オオバショリマ、クサニワトコ、ナガバノモミジイチゴ、ヒカゲノカズラ、古千本沼ではアブラガヤ、ミズキ、オオミズゴケ、ヒメミズゴケ・・・。

古生沼では ヤチスゲ、マイヅルソウ、オトギリソウ、ツルリンドウ、エゾリンドウ、ノリウツギ、モウセンゴケ、ホツツジ、ノギラン・・・。

古生沼の周りにはシカよけの網があったが、それでも笹をかき分けてシカが侵入しているとのことであった。観察後、頂上で昼食をとり、希望者はこしき岩まで観察に出かけた。この道は以前の工事で石を組み、木の段があるのだが、排水が悪く、段差も険しくなっていて、とても歩きにくい道であった。この道を県は石を入れて整備する計画という。私は木製の歩道の方がよっぽど自然に優しく、景観の保全にも優れているように感じた。



その後、空模様が怪しくなり、下山を急いだが、途中で雷も鳴り、大粒の雨も降り出し、濡れながら、大段ガ平へ下山。解散した。

お世話下さった前田先生、盛谷先生、西村さんありがとうございました。

兵庫県生物学会第59回大会報告

日 時：2005年5月22日(日)

10:00~16:20

場 所：兵庫県立コウノトリの郷公園

参加者名：阪口正樹、宇那木隆、平畑政幸

杉田隆三、横山了爾、永吉照人、武田義明、白岩卓巳、奈島弘明、盛谷 浩、前田常雄、菅村定昌、吉田誠治、岸本正幸、田村 統、福原陽一郎、西村登、西垣志郎、山本一幸、高橋 匡、真野育三、中崎智子、上根大輔、矢頭卓児、林 美嗣、小嶋良平、後藤統一、稲葉一明、工義尚、井上清仁

日 程：1 受付 10:00~

2 フィールドワーク

祥雲寺地区内 10:30~

3 第59回総会 13:00~

(1) 開会の挨拶(但馬支部前田支部長)

(2) 会長挨拶(白岩会長)

(3) 来賓祝辞(県立コウノトリ公園白井副園長)

(4) 議長選出(真野育三、宇那木隆)

(5) 議事

①会長選挙結果報告

②2004年度会務報告.....承認

③2004年度会計報告.....一般会計、特別会計とも承認

④2005年度企画案.....承認

⑤2005年度予算案.....承認

⑥その他

60周年誌についての報告

(6) 2005年度(平成17年度)役員委嘱

(7) 研究奨励賞贈呈

山本 一幸氏(但馬支部)

4 記念講演 14:10~

講師：兵庫県立大学自然・環境科学研究所田園生態系 教授 兵庫県立コウノトリの郷公園 研究部長 池田 啓 氏

5 記念写真撮影 15:15~

6 研究奨励賞・研究発表 15:40~

7 閉会 16:50~